

小学校学習指導要領（音楽）に基づく歌唱指導のあり方

—歌唱共通教材を中心に—

栗 村 眞 久

The Way of Song Instruction According to Government Teaching Guidelines (Music)
for Elementary Schools: Focusing on the Common Teaching Materials for Singing

Masahisa AWAMURA

I 問題と目的

平成 20 年に小学校教育要領の改訂が行われ、平成 23 年度から全面実施されている。本論では新小学校学習指導要領（音楽）の歌唱指導に着目し、歌唱共通教材を中心に歌唱指導のあり方について検討することを目的とする。

現学習指導要領（音楽）の歌唱活動については、第 4 章「指導計画の作成と内容の取り扱い」1 指導計画作成上の配慮事項「(3) 歌唱の指導について、イ 歌唱活動については、共通教材ほか、長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること」¹⁾とある。

さらに授業内容 A 表現では「(1) 歌唱活動を通して、次の事項を指導する。」低学年から高学年にかけて次のように授業の視座が述べられている。（下線は筆者が行う）

【低学年】では「イ 歌詞に表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じとったりし、思いをもって歌うこと。」【中学年】では「イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」【高学年】では「イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」²⁾とある。

その中で今回の改訂から「表現に対する自分の明確な考えや願い、意図をもって歌う」という、“思い”と“意図”という言葉が強調されている。また、「楽曲から独特な雰囲気や、気持ちや味わい、表情といった曲想の工夫」³⁾が求められている。

現在の学生は平成元年、平成 10 年改訂の学習指導要領によって歌唱指導を受けているが、本大学での音楽の授業で学生たちが歌唱しているところを見ると、表現力や感情移入の乏しい学生が目立つ。つまり、小学校での授業内容に述べられている歌唱指導が、個々の学生に生かされて

1) 文部科学省 2008『小学校学習指導要領解説』（音楽編）p. 72 (3) 歌唱活動について

2) 文部科学省 2008『小学校学習指導要領解説』（音楽編）p. 94 各学年の目標及び内容の系統

3) 文部科学省 2008『小学校学習指導要領解説』（音楽編）p. 54 3 節 第 5 学年及び、第 6 学年の目標と内容

いないと言える。

そこで、現在の大学生が今後、歌唱指導を行う際のあり方を、彼女らが小学校でどのように歌唱活動を指導されたかということに関するアンケート調査に基づいて考察しようと考えた。

アンケートは、平成元年と平成10年の学習指導要領の歌唱活動に含まれる“歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫すること”⁴⁾等が授業でいかに指導されていたかを中心に問うことにした。

児童期に特に育てておきたい情操をさまざまな歌唱活動を通して子ども達に少しでも伝えていけたらと思うからである。なお、この研究はあくまでも将来小学校教諭を目指す大学生を対象とした歌唱指導が現場で円滑に行われるようにするものである。

Ⅱ 唱歌と唱歌の成立

「唱歌」は1872年(明治5年)に学制が発布され、小学校の「教科」の一つとされたが、指導者がいないということからその取り扱いは「当分之ヲ欠ク」とされ、明治8年伊沢修二が日本人としてはじめてアメリカに渡りボストン公学音楽監督ルーター・ホワイティング・メーソン(Luther Whiting Mason 1828-1896)のもとで音楽教育を学んだ。帰国後、明治12年創設された音楽取調掛の御用掛に任命された。そのころ音楽取調掛が定めた三項の方針(1.東西二洋の音楽を折衷して新曲を作る。2.国楽を興すべき人物の養成。3.諸学校に音楽を実施して適否を試みる)(文責 編者 1991)は、我が国その後の音楽教育の方向を定める重要な鍵となった。

これらを根幹とし、音楽取調掛の手で10年経た1881年から1884年にかけて「小学唱歌集初編」「小学唱歌集第二編」「小学唱歌集第三編」として3冊にまとめられた。戦前からの「唱歌」が引き継がれ「文部省唱歌」として一般的になり、現在でも愛唱されていることは事実である。「唱歌」のための教科書は学制発布からこれが我が国最初の官製の音楽の教科書とされた⁵⁾。

Ⅱ-1 歌唱すること

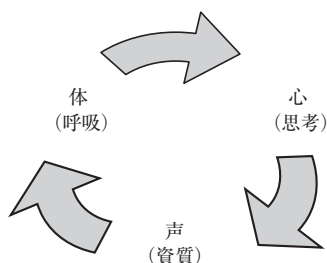
一口に言って歌唱することは簡単そうでそう簡単にできる活動ではない。歌唱することの基礎が大切になってくる。楽しく表現したいとなると子ども達にとっても歌を表現する最低限の技術が必要になってくる。歌唱することは一種の総合的なスポーツと同様に心(思考)と体(呼吸)と声(資質)【図1】とが三位一体となりバランスよく作用されなければならない。

歌唱するということは、声楽のプロが歌うことを示す言葉ではなく、一般の人や学生、児童、幼児にも当てはまる歌うことの活動である。歌はただメロディーに合わせて歌えば良いのではなく、いろいろな要素が含まれてはじめて歌唱することになる。

小学校の音楽科の授業指導計画も多くの課題を投げかけている。歌唱することの基本となる文言が低学年ウでは「自分の歌声及び発音に気をつけて歌うこと。」中学年では「呼吸及び発音の仕方に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。」

4) 文部省 1989『小学校指導書 音楽編』p.20 (2) 楽曲の気分や音楽を特徴付けている要素を感じ取って～の項。

5) 品川恵保 1991『新訂 尋常小學唱歌』(復刻版)



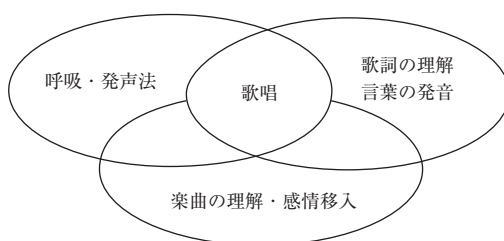
【図1】歌唱することの三位一体の関係

高学年では中学年での文言に加えて「響きのある歌い方」が付け加えられている。平成元年改訂までに述べられていた指導の留意点「頭声的発声法」は「自然で無理のない歌い方で歌うこと。」と同義語であることを忘れてはならない。つまり、頭声的発声法は自然でバランスのとれた正しい歌唱法であるからである。

指導者は「頭声的発声法」＝「自然で無理のない歌い方で歌うこと。」この意味を正しく理解した上で、授業を進めることが望ましいといえる。従って、呼吸法、発声法、曲への解釈等々を含む「歌唱すること」に関する指導は、小学校教諭（音楽専科教諭）にとっても避けて通れない意義深い活動である。

このことは「感性を育む音楽」での重要な活動でもあることも忘れてはならない。

次の【図2】は「歌唱すること」を中心に図式し、表したものである。これらの要素が一つにまとまった形で表現されることが歌唱することの基本である



【図2】「歌唱すること」のそれぞれの要素
呼吸法、発声法、曲への解釈等々を含む

Ⅲ 学習指導要領、歌唱指導事項の検討（平成元年改訂～平成20年改訂分）

学習指導要領 第4章指導計画の作成と各学年にわたる内容の取り扱い

ここでは、各学年にわたる内容の取り扱いと指導上の留意点の比較をする【表1】。比較をすることによって学習指導要領における歌唱指導の大切な要素が理解できよう。

Ⅲ-1 各学年にわたる内容の取り扱いと指導上の留意点の比較

歌唱活動について平成元年、平成10年と平成20年改訂を比較してみると次のような【表1】大切な部分が浮き彫りになる。

【表1】 各改訂年度の歌唱活動の指導

平成元年改訂 歌唱活動の指導について	平成10年改訂 歌唱活動の指導について	平成20年改訂 歌唱活動の指導について
<p>(1) 歌唱指導における階名唱については、<u>移動ド唱法を原則とすること</u>。</p> <p>(3) 発声の指導については、<u>頭声的発声を中心とするが、楽曲によっては、曲想に応じた発声の仕方を工夫するようにする</u>。</p> <p>(7) 歌唱教材を共通教材の楽曲の中から選択する場合には、<u>わらべうたや日本古謡を含めるようにすること</u>。また、それらの教材と関連して、それぞれの地方に伝承されているわらべうたなどを適宜取り上げるようにすること。</p>	<p>(1) 歌唱指導における階名唱については、<u>移動ド唱法を原則とすること</u>。</p> <p>(6) 歌唱教材を共通教材の楽曲の中から選択する場合には、<u>わらべうたや日本古謡を含めるようにすること</u>。また、それらの教材と関連して、それぞれの地方に伝承されているわらべうたなどを適宜取り上げるようにすること。</p>	<p>(3) 歌唱の指導については、次のとおり取り扱うこと。</p> <p>ア 相対的な音程感覚を育てるために、<u>適宜、移動ド唱法を用いること</u>。</p> <p>ア 歌唱教材については、共通教材のほか長い間親しまれてきた唱歌、それぞれの地方に伝承されているわらべうたや民謡など日本のうたを含めて取り上げるようにすること。</p> <p>ウ 変声以前から自分の声の特徴に関心をもたせるとともに、変声期の児童に対して適切に配慮すること。</p>

- ①唱法について見てみると、「平成元年及び10年の改訂では移動ド唱法⁶⁾を原則とすること」とあるが、平成20年改訂を見てみると、「適宜、移動ド唱法を用いること」と内容の変更がなされている。調性がある以上、移動ド唱法を基礎として使用することが自然な唱法であると言えよう。
- ②平成元年の改訂では発声法の指導について頭声的発声法が述べられているが、平成10年、平成20年改訂ではその文言が使われていない。平成20年改訂では、「変声以前から自分の声の特徴に関心をもたせるとともに、変声期の児童に対して適切に配慮すること。」が付け加えられている。
- ③平成20年改訂では「相対的な音程感覚を育てるために適宜、移動ド唱法を用いること」となっている。このことは移動ド唱法を難しいと感じる児童への教育的配慮でこのような表記の仕方が考えられているのかも知れないが、移動ド唱法を理解することが相対的な音楽をより楽しめる環境にしてくれる。

Ⅲ-2 各学年の授業内容の比較

ここでは、各学年の授業内容の歌唱活動関係のみを比較の対象とするが、平成元年改訂分と、平成10年改訂分の内容がほぼ同様なため、平成元年、平成10年改訂と平成20年改訂との比較【表2】としたい。

下線部分がどれだけ子ども達に理解できるか教師の腕にかかっていることを指導者自身が身をもって感じなければならぬ。

6) 移動ド唱法 階名唱には移動ド唱法と固定ド唱法とがあるが、移動ド唱法は無理なく音の相対的な感覚や調性感を養う唱法。端的に言えば調性上の階名ドレミで歌う唱法。

【表2】 各改訂年度の指導内容の比較

平成元年改訂 歌唱活動の指導について	平成 10 年改訂 歌唱活動の指導について	平成 20 年改訂 歌唱活動の指導について
<p>【低学年】 (2) <u>楽曲の気分や音楽を特徴付けている要素を感じとって、工夫して表現できるようにする。</u> ア <u>歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。</u></p> <p>【中学年】 (2) <u>曲想や音楽を特徴付けている要素を感じとって、工夫して表現できるようにする。</u> ア <u>歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫すること。</u> (3) <u>歌い方や楽器の奏法を身につけるようにする。[3 学年]</u> <u>発音及び、呼吸の仕方に気をつけて、頭声的発声で歌うこと。</u> ア <u>歌詞の内容及び楽曲の仕組みを理解して、それらを生かした表現の仕方</u> (3) <u>歌い方や楽器の奏法を身につけるようにする。[5 学年]</u></p> <p>ア <u>発音及び呼吸の仕方に気をつけて、豊かな響きの頭声的発声で歌うこと。</u> (6) <u>教材に示すものを取り扱う。[5 学年]</u> ア <u>主となる歌唱教材は、ウの共通教材の中の各 3 曲を含めて、斉唱、輪唱及び二部合唱及び三部合唱で歌う楽曲を合わせて年間 11 曲程度。</u> (6) <u>教材に示すものを取り扱う。[3 学年]</u> ア <u>主となる歌唱教材は、ウの共通教材の中の各 3 曲を含めて、斉唱、輪唱及び二部合唱で歌う楽曲を合わせて年間 15 曲程度。</u></p> <p>【高学年】 [5 学年] (2) <u>曲想や音楽を特徴付けている要素を感じとって、工夫して表現できるようにする。</u></p>	<p>【低学年】 (2) <u>楽曲の気分や音楽を特徴付けている要素を感じとって、工夫して表現できるようにする。</u> ア <u>歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。</u></p> <p>【中学年】 (2) <u>曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。</u> ア <u>歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫すること。</u> (3) <u>歌い方や楽器の演奏の仕方を身につけるようにする。</u> ア <u>呼吸及び発音の仕方に気をつけて、自然で無理のない声で歌うこと。</u> ア <u>歌詞の内容や楽曲の構成を理解して、それらを生かした表現の仕方を工</u> (3) <u>歌い方や楽器の演奏の仕方を身につけるようにする。</u></p> <p>ア <u>呼吸及び発音の仕方を工夫して、豊かな響きのある、自然で無理のない声で歌うこと。</u> (5) <u>表現教材は次に示すものを取り扱う。</u> ア <u>主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材の中の 2 曲を含めて、斉唱及び合唱で歌う楽曲。</u> (5) <u>表現教材は次に示すものを取り扱う。</u> ア <u>主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材の中の 3 曲を含めて、斉唱及び簡単な合唱で歌う楽曲。</u></p> <p>【高学年】 (2) <u>曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って、工夫して表現できるようにする。</u></p>	<p>【低学年】 (1) <u>歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。</u> イ <u>歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。</u></p> <p>【中学年】 (1) <u>歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。</u> イ <u>歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。</u> ウ <u>呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うことを工夫し、思いや意図をもって歌うこと。</u> ウ <u>呼吸及び発音の仕方を工夫して、</u> (4) <u>表現教材は次に示すものを取り扱う。</u> ア <u>主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材の中の 3 曲を含めて、斉唱及び合唱で歌う楽曲。</u> (4) <u>表現教材は次に示すものを取り扱う。</u> ア <u>主となる歌唱教材については、各学年ともウの共通教材を含めて、斉唱及び簡単な合唱で歌う楽曲。</u></p> <p>【高学年】 (1) <u>歌唱の活動を通して、次の事項を指導する。</u> イ <u>歌詞の内容、曲想に生かした表現</u></p>

小学校学習指導要領解説（音楽編）では「自然で無理のない歌い方」を次のように説明している。（下線は筆者が行う）

児童一人一人の声の持ち味を生かしつつも、音楽的には曲想にふさわしい自然な歌い方をし、身体的には成長の過程にある児童の声帯に無理のかからない歌い方をするというのである。このことについて音楽（声楽）の専門家が介在し、確かな指導を授業担当する教諭が身をもって体得しなければならない。そうすることが、歌唱指導をするときに最も重要なこととなる。筆者はこのことについて強く力説したいところである。

歌唱教材の取り扱いについて平成20年改訂で歌唱教材の充実を指摘している。歌唱共通教材については、取り扱う楽曲数を各学年とも増加された。具体的には第1学年から第4学年までは4曲すべてを取り扱う。第5学年及び第6学年は4曲中3曲を含めて取り扱うようになった。

Ⅲ-3 各学年の歌唱共通教材の変遷

次の【表3】のように、これまでの歌唱共通教材の変遷、平成元年、平成10年改訂を見てみると、この20年間楽曲の変化はみられないが、各学年での学ぶ共通教材の指導の曲数に変更がみられる。また、B鑑賞においては言語活動の充実が強調されている。

共通教材の利点の一つに国民全員（老若男女）がさまざま時代を経ながら共有し、歌唱することがあげられる。唱歌は日本の四季の美しさを描き楽曲それぞれが豊かな情緒感を共有することができる。

【表3】 歌唱共通教材の変遷（平成元年～平成20年の間各教材は変わっていない）

平成元年告示, 平成4年実施, 平成10年告示, 平成14年実施 平成20年告示, 平成23年実施			
1年	うみ（文部省唱歌） かたつむり（文部省唱歌） 日のまる（文部省唱歌） ひらいた ひらいた（わらべうた）	2年	かくれんぼ（文部省唱歌） 春がきた（文部省唱歌） 虫のこえ（文部省唱歌） タヤけ こやけ
3年	うさぎ（日本古謡） 茶つみ（文部省唱歌） 春の小川（文部省唱歌） ふじ山（文部省唱歌）	4年	さくらさくら（日本古謡） とんび まきばの朝（文部省唱歌） もみじ（文部省唱歌）
5年	こいのぼり（文部省唱歌） 子もり歌（日本古謡） スキーの歌（文部省唱歌） 冬げしき（文部省唱歌）	6年	越天楽今様（日本古謡） おぼろ月夜（文部省唱歌） ふるさと（文部省唱歌） われは海の子（文部省唱歌）

Ⅲ-4 歌唱共通教材各曲歌詞の理解について

歌詞の理解については歌詞中には現代の言い方をしない語彙があり理解が難しい。また、語彙の意味を理解できていないと心を込めて歌うことは出来ない。

唱歌には時代を越え、歌い継がれている楽曲の良さが存在する。従って、歌唱する場合の情景やイメージを豊かに表現するためには歌詞の理解が必須である。この歌詞の理解、情景やイメージを理解することによって自然で豊かな情景が歌詞を通して浮かんでくるのである。教師はどのようにして歌詞の内容を伝えていくかの表現力を学ばなければならない。

歌唱共通教材各曲の細かな歌詞の理解方法については次回の課題としたい。

問6. 担任の先生は共通歌唱教材をご指導されるとき、ピアノの伴奏が弾けましたか。(1学年～3学年まで) 番号を○印で囲んでください。

1. 当てはまらない 2. まあまあ当てはまる 3. 当てはまる
4. よく当てはまる

問7. 小学校指導書音楽編低学年(平成元年改訂)A表現の授業内容(2)ア.に「歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること」とありますが、当時、ご指導の先生(専科の先生を含む)は歌詞の内容を理解するために、歌詞の説明を丁寧にされましたか。番号を○印で囲んでください。

問8. 小学校指導書音楽編中学年(平成元年改訂)A表現の授業内容(2)ア.に「歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫すること」とありますが、当時、ご指導の先生(専科の先生を含む)は歌詞の内容を理解するために、歌詞の説明を丁寧にされましたか。番号を○印で囲んでください。

1. 当てはまらない 2. まあまあ当てはまる 3. 当てはまる
4. よく当てはまる

3. 当てはまる 4. よく当てはまる を選んだ方は、その理由を書いてください。

問9. 小学校の音楽の授業は楽しかったですか、それとも楽しくなかったですか、それぞれ、当てはまる理由を書いてください。

ご協力ありがとうございました。このアンケートは、「小学校(音楽科) 共通歌唱教材の理解～歌詞の内容及び、楽曲の表現の理解について～」の研究のみに使用させていただきます。

児童教育学科音楽担当 栗村 眞久

【アンケートの結果及び考察】(各質問文は省略する。)

小学校学習指導要領には歌唱共通教材、各曲の歌詞の理解について～歌詞の内容及び楽曲の表現の理解～等(平成元年、平成10年改訂の学習指導用に含まれる)について示されているが、本大学生が小学校でどのように歌唱活動を指導されたかということの実態を検討するため、本児童教育科在学学生498名中473名に小学校(音楽)で“歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫すること”等が授業でいかに指導されていたかに関するアンケート調査を行いそれに基づき考察した。

まずは、～歌詞の内容及び楽曲の表現の理解～がアンケートのテーマということから、それも表現の理解という感性に関することであるため、問2. 各学生の音楽関係の経験があるが否かについて尋ねた。回答は473名中324名(68%)が何かしらの音楽経験をもっていることが分かった。

この間の動機理由として、①自ら(122名、26%)、②両親(特に母親の勧め119名、25%)③姉妹、兄弟の影響(62名、13%)④友人の影響(36名、8%)があげられ、学生自ら、家族の影響、友人の影響が強いということが見て取れた。

続いて問3. 各学年で歌ったことのない(習ったことのない)曲はあるかの質問に、1学年「日のまる」、2学年「かくれんぼ」、3学年「ふじ山」、「うさぎ」、4学年「まきばの朝」、「とんび」、5

学年「子もり歌」, 「スキーの歌」, 6学年では「越天楽今様」次いで「我は海の子」「おぼろ月夜」であった。この数字【表5】について大学4年次は平成元年改訂の学習指導要領を使用, 大学3～1年次は平成10年改訂の学習指導要領の移行期になっており, しかし, いずれの曲目も変わっておらず, 移行期の学習指導要領に従って授業が進められている。平成元年改訂の学習指導要領の「主となる歌唱教材は, ウの共通教材の中の各3曲を含めて, 斉唱, 輪唱及び二部合唱及び三部合唱で歌う楽曲を合わせて年間11曲程度。」平成10年改訂（移行期）の指導要領では「ア主となる歌唱教材については, 各学年ともウの共通教材の中の2曲を含めて, 斉唱及び合唱で歌う楽曲。」となっているため, 歌ったことのない（習ったことのない）曲が各小学校, または関係の先生の裁量によるものと考えられ, このような結果がでたのだと推測するところである。

各学年で歌ったことのない（習ったことのない）曲

- 【第1学年】 1. 「うみ」 2. 「かたつむり」 3. 「日のまる」 4. 「ひらいたひらいた」
- 【第2学年】 1. 「かくれんぼ」 2. 「春がきた」 3. 「虫のこえ」 4. 「夕やけこやけ」
- 【第3学年】 1. 「うさぎ」 2. 「茶つみ」 3. 「春の小川」 4. 「ふじ山」
- 【第4学年】 1. 「さくらさくら」 2. 「とんび」 3. 「まきばの朝」 4. 「もみじ」
- 【第5学年】 1. 「こいのぼり」 2. 「子もり歌」 3. 「スキーの歌」 4. 「冬げしき」
- 【第6学年】 1. 「越天楽今様」 2. 「おぼろ月夜」 3. 「ふるさと」 4. 「われは海の子」

【表5】 各学年で歌ったことのない（習ったことのない）と回答した数

	曲1	曲2	曲3	曲4
第1学年	19	29	263	54
第2学年	191	20	30	25
第3学年	113	66	32	184
第4学年	30	215	251	35
第5学年	58	357	357	221
第6学年	365	129	19	134

問4. 小学校で習う歌（共通歌唱教材を含む）を楽しく歌っていましたか。の間に「4. 当てはまる（189名, 40%）」, 「5. よく当てはまる（177名, 37%）」のように77%の学生が当時を思い出して回答している。問題は「3. どちらともいえない」（62名, 13%）と「1. 全く当てはまらない（22名, 5%）」「2. 当てはまらない（25名, 5%）」である。この児童の興味・関心を抱かせ楽しく歌うことができるように教諭は児童の興味・関心との底上げをする努力が必要であったのではないかと考える。

問5. すぐ歌える歌（歌唱共通教材（問3.を参照）を含む）があったら書いて下さい。の問いに対して, 歌唱共通教材上位から「ふるさと」「もみじ」「茶つみ」があげられ, 歌唱共通教材以外では「ピリーブ」「翼をください」「旅立ちの日に」があげられた。歌唱共通教材ではやはり, 日本の情緒が感じられる曲を指導者が教材として与えているし, また, 共通教材以外では, 時代的（学生が小学校の時に話題になった曲）, 指導者が生徒の時に興味があった曲があげられていると推察する。

問6. 小学校の時、先生は歌唱共通教材をご指導される時、ピアノの伴奏が弾けましたか。(1学年～3学年まで) (1.当てはまらない 2.まあまあ当てはまる 3.当てはまる 4.よく当てはまる) では、「1.当てはまらない」が(74名, 15%), 「肯定的な回答」, 【表6】は(393名, 83%)であった。このアンケートでは小学校の先生は指導される時圧倒的にピアノ伴奏が弾けたようである。

【表6】 ピアノ伴奏が弾けたか

	1	2	3	4
計	74	171	96	126

問7. 歌をご指導の先生は「歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現することに対して」どのような手立てで指導されましたか。については、「小学校の時のことは覚えてない」という回答が圧倒的であったが、その中でも忍耐強く学生のアンケートを検討していくと、①歌詞の内容を理解するための指導が行われた(歌詞の意味を知り、イメージ、その風景を思い浮かべながら歌った)。②口頭や、絵で、映像で、写真で、ビデオで情景を知らせて貰った。③イメージ画を書きみんなで一緒に歌った。④歌詞を読んで、朗読して、内容を説明された。従って、歌詞の意味を分かるように説明されたと推察する。

問8. 「歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫すること」に対して、ご指導の先生は歌詞の内容を理解するために、歌詞の説明を丁寧にされましたか。番号を○印で囲んでください。

この問では、否定的な回答は(34名, 7%), 肯定的な回答は(407名, 86%)で圧倒的に何らかの手段をもって歌詞等の説明がなされていたということが分かった。

【表7】 小学校の先生から歌詞の説明を丁寧にされたか

	1	2	3	4
計	34	297	75	35

以上、大学生のアンケートを検討してきたが、当初、考えていたことは、学生たちの中には共通教材を歌唱するときに情景、情感、作者の意図する気持ちなしに淡々と歌っている印象が強い。そのため、その部分が授業の中で指導されていないものだと考えていたが、アンケートによると想像以上にピアノ伴奏は弾きながら歌唱活動をされていることが分かった。但し、ピアノ伴奏が、上手くいったかどうかについては実際は判断しようがない。

V ま と め

「歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること、楽曲の気分を感じとったりし、思いをもって歌うこと。」歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。と小学校学習指導要領(音楽)の授業内容にあるが、これを表現することはかなり難しい。

小学校教育課程で学ぶ学生にとっては、文章で記すことは容易のようだがそれを実際にそれぞれの感情を小学生に伝えることは多少のテクニックが必要となる。それは児童自身の音楽への得手、不得手に関係することであると思われ、各児童にきめ細かく指導していく確かな技量が必要

であるからであろう。

また、これまで育った環境も違うからである。前記の教育事項に沿って指導するには指導者自身の音楽的資質（素養）、音楽的技量が必要となる。

本論では、現在の大学生が今後歌唱指導を行う際のあり方を、彼女らが小学校でどのように歌唱活動を指導されたかということに関するアンケート調査に基づいて考察した。アンケートは、平成元年と平成10年の学習指導要領の歌唱活動に含まれる“歌詞の表す情景や気持ちを想像して表現すること。歌詞の内容を理解して表現の仕方を工夫すること”等が授業でいかに指導されていたかを問うもので、特に、歌唱共通教材がいかに利用されていたかを中心に尋ねた。

その結果次のようなことが問題点として浮かび上がった。

1. アンケートから小学校音楽の歌唱活動の授業ではほとんどの学生が楽しく授業を受けており、歌詞の内容を学び理解している。しかし、本大学での音楽の授業で歌唱しているところを見ると表現力の乏しさや感情移入の少ない学生が目立つ。つまり、歌詞の内容を学び理解しているが、表現が表面的であることに気づかされる。

学生たちは、このような楽譜上のみの理解ではなく、情感を込めて歌唱することに挑戦する必要がある。つまり、教師自身が、歌唱教材の歌詞の理解、その歌唱教材の旋律を、心を込めながら（感情移入しながら）無伴奏で歌って聞かせ、一人一人の児童にわかりやすく伝えていくことが求められる。そうすることにより、歌が本来もっている思いや意図を上手く表現し、伝承できるのではないかと考える。

歌を特別上手く歌う必要はないが、心に残る経験を子ども達に提供する必要があると考える。

2. さらに、歌唱の幅を広げる意味で、指定された歌唱共通教材だけでなくいろいろな歌を教材として扱うことが大切である。また、長い間日本で歌い継がれている唱歌を取り入れることも感性を育てるうえで必要であろう。

3. 唱歌の多くは内容的にも古くなっているが、日本の四季や行事を上手く盛り込み表現している作品が多々あることから時間をかけ、その唱歌の良さを伝承することが意義のあることだと考える。

引用文献

- 音楽教育研究教会（編）2000『最新 音楽科教育法』東京：音楽教育研究協会。“わが国における小学校音楽教育の変遷” 160-162
品川恵保 1991『新訂尋常小學唱歌』（復刻版）東京：日本音楽教育センター。

参考文献

- 文部省 1989『小学校指導書 音楽編』（株）東京：教育芸術社。
文部科学省 1999『小学校学習指導要領解説 音楽編』東京：（株）教育芸術社。
文部科学省 2008『小学校学習指導要領解説』（音楽編）東京：教育芸術社。

石井宏美・虫眞砂子 2011「小学校の音楽科における歌唱共通教材のあり方について」岡山大学教師教育開発センター紀要, 第1号, pp, 57-68

木暮朋佳 2011「小学校歌唱共通教材の歌詞の定型詩構造に関する一考察」美昨大学・美作大学短期大学部紀要 Vol. 56 65~72

横田憲一郎 2002『教科書から消えた唱歌・童謡』東京：産経新聞社。

Summary

This study discusses how current university students should teach singing in elementary schools when they become teachers in the future, based on a questionnaire with respect to the way they were taught singing in their elementary schools. The questionnaire asked mainly about the way the common teaching materials for singing were utilized and taught in their music classes based on the government teaching guidelines, such as the items of “imagine the scenes and the emotions and express them,” “understand the words and be creative with expressing them,” and so on. They were a part of singing activities of the government teaching guidelines in 1989 and 1999.

The following things were found to be the most important issues:

1. According to the questionnaire, most students enjoyed their music classes in the elementary schools as well as learning and understanding the words of the songs. I, however, have noticed that a considerable number of those students do not show enough expressiveness and empathy in their singing classes in the university. In other words, the students seem to understand the words through learning, but their expression remains superficial. Therefore, it is advisable that the students should not only focus on understanding musical scores, but challenge themselves to sing with great feeling. When they become teachers, they should try to sing unaccompanied and expressively at first addressing each of their students so that they will successfully be able to convey the feelings and the intentions inherent in the songs. I believe that children do not have to sing a song particularly well, but instead they should have a memorable singing experience itself.

2. It is considered important for children to sing not only the designated common learning materials for singing, but also a variety of other songs, which will widen the range of their singing opportunities. At the same time, it is necessary that the teachers utilize the traditional Japanese songs which have been sung in school for a long time in order to nurture children's sensitivity.

3. It is also considered very significant that the teachers take time to let the children understand and appreciate the true value of the traditional Japanese songs sung in school. Most of these songs have become old, but they represent the pleasure of the four seasons and the events of the month in excellent ways.

[2012. 9. 27 受理]